

# 〈独自の InstallShield 前提条件を作成する〉

注)このドキュメントは、InstallShield 2014 Premier Edition を基に作成しています。InstallShield 2014 以外のバージョンでは設定名などが異なる場合もあります。

## 概要

InstallShield 前提条件は、製品が必要とする他製品やテクノロジー・フレームワークをインストールするための機能を提供しています。InstallShield があらかじめ提供している前提条件には、各バージョンの .NET Framework、Visual C++ Redistributable および SQL Server Express(英語版) などがありますが、これらを追加するだけでなく、独自の InstallShield 前提条件を作成して、プロジェクトに追加することもできます。

この記事では、InstallShield で提供されていない製品を前提条件でインストールするために、独自の InstallShield 前提条件を作成する方法を紹介します。

## InstallShield 前提条件の新規作成

新しいInstallShield 前提条件を作成して、プロジェクトに追加します。今回は、例として「Microsoft SQL Server 2014 Express (x64)」の日本語版をインストールするための前提条件を作成します。

※デフォルトで用意されている前提条件「Microsoft SQL Server 2014 Express(x64)」は英語版モジュールです

1. 前提条件で実行するファイルをあらかじめローカルに保存しておきます  
ここでは、以下よりダウンロードした「SQLEXP\_x64\_JPN.exe」を「C:\My Program」に配置しておきます

参考: 「Microsoft® SQL Server® 2014 Express (日本語版) のダウンロード」  
<http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=42299>

2. [ツール]メニューから[前提条件エディタ]を起動します
3. [プロパティ]タブを表示します

[InstallShield 前提条件の固有のID] は前提条件を識別するためのIDとなります。デフォルトでは、自動的にGUID が振られますので、このまま使用します



4. [条件]タブを表示して、[追加]ボタンをクリックし、以下の設定を行います

#### 条件の種類

- ・レジストリエントリが指定のバージョンを含む

#### プロパティ

- ・ 確認するレジストリ キー名を指定します :  
HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Microsoft SQL Server\SQLEXPRESS\MSSQLServer\CurrentVersion
- ・ 確認するレジストリの値名を指定します : CurrentVersion
- ・ 確認するレジストリの値データを指定します : 12.0.2000.8
- ・ 以下の場合に前提条件を実行します : ターゲットシステム上のデータが指定されたデータよりも小さい
- ・ 64 ビット システムで次のレジストリの場所を確認する : 64ビット

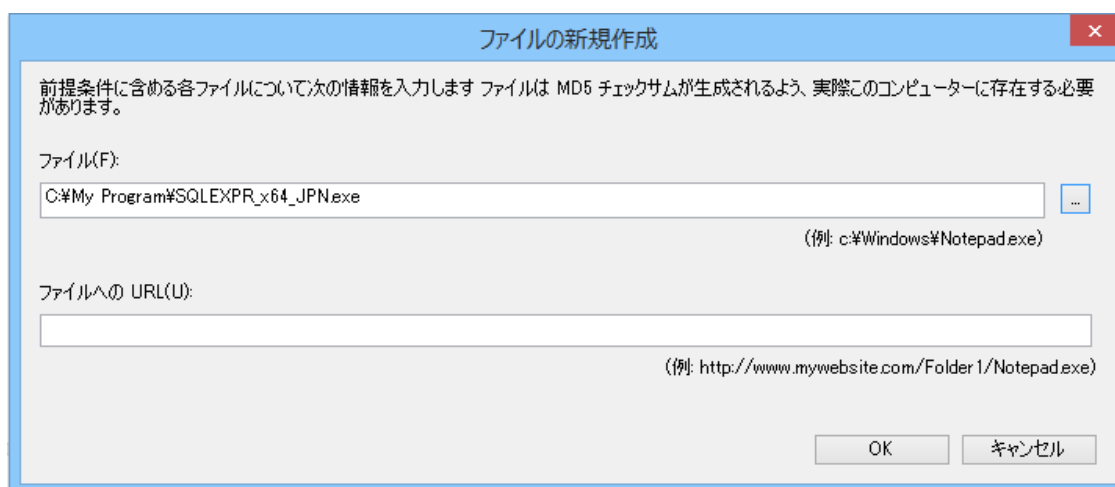
その他、OS の実行条件など、必要に応じて設定を行います。

参考)

種類	データ
レジストリ エントリが特定のバージョン値を含む	HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Microsoft SQL Ser
ユーザーが特定の OS を実行中	Windows 7/Windows Server 2008 R2 64-bit (x64)
ユーザーが特定の OS を実行中	Windows 8/Windows Server 2012 64-bit (x64)
ユーザーが特定の OS を実行中	Windows 8.1/Windows Server 2012 R2 (x64)

5. [含めるファイル]タブを表示して、[追加]ボタンをクリックし、Microsoft SQL Server 2014 Express (x64) 日本語版のファイルを指定します

ファイル: C:\My Program\SQLEXP\_x64\_JPN.exe

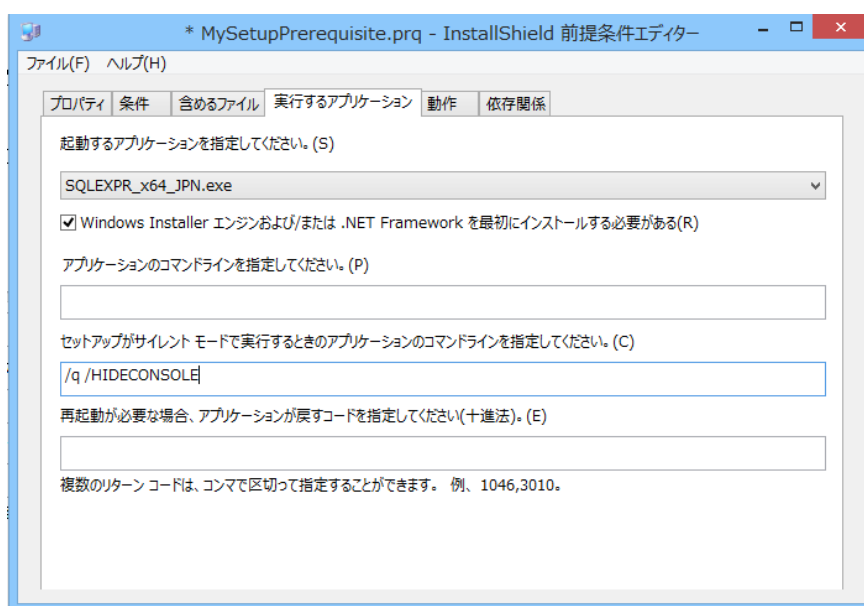


6. [実行するアプリケーション]タブを表示して、以下の設定を行います

起動するアプリケーションを指定してください。 : SQLEXP\_x64\_JPN.exe

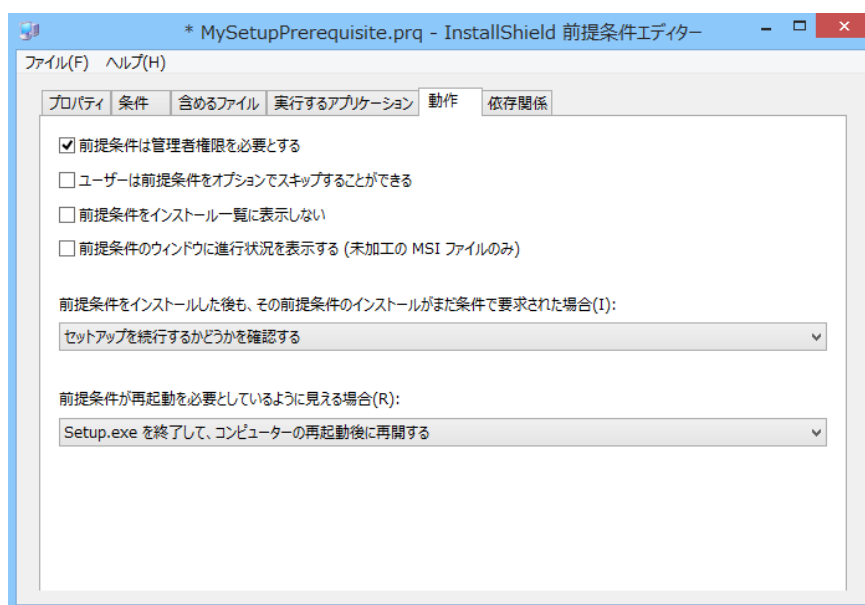
Windows Installer エンジン および / または .NET Framework を最初にインストールする必要がある : チェックする

セットアップがサイレントモードで実行するときのアプリケーションのコマンドラインを指定してください。 : /q /HIDECONSOLE



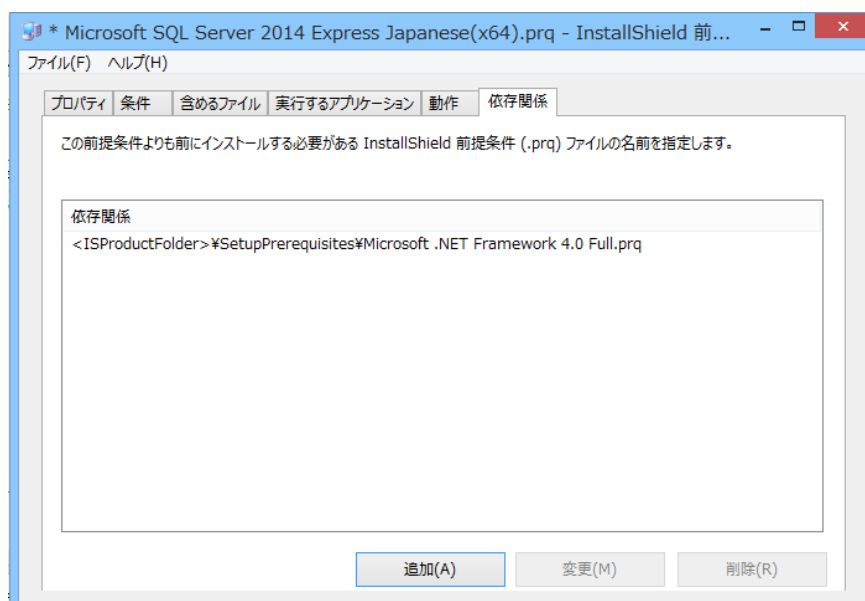
## 7. [動作]タブを表示して、以下の設定を行います

- |  |                                     |
|--|-------------------------------------|
| 前提条件は管理者権限を必要とする                           | : チェックする                            |
| 前提条件をインストールした後も、その前提条件のインストールがまだ条件で要求された場合 | : セットアップを続行するかどうかを確認する              |
| 前提条件が再起動を必要としているように見える場合                   | : Setup.exe を終了して、コンピューターの再起動後に再開する |



## 8. [依存関係]タブを表示して、[追加]ボタンをクリックし、以下の.prq ファイルを追加します

<InstallShield Program Files フォルダ>¥SetupPrerequisites¥Microsoft .NET Framework 4.0 Full.prq  
 ※Microsoft SQL Server 2014 Express は、Microsoft .NET Framework 4.0 が必須要件となります



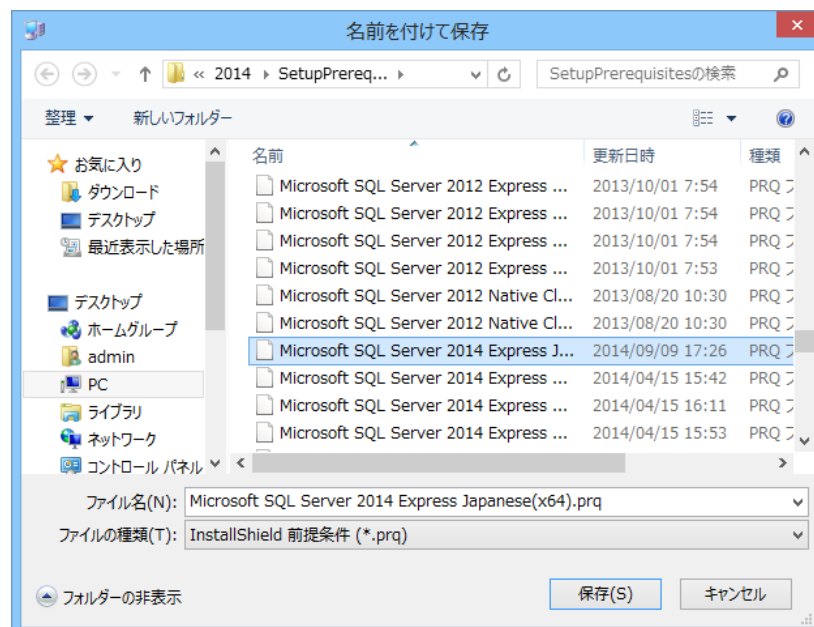
9. [ファイル]メニューから[名前を付けて保存]を選択し、以下のフォルダに保存します

保存先: <InstallShield Program Files フォルダ>¥ SetupPrerequisites

例) InstallShield 2014 の場合 C:¥Program Files¥InstallShield¥2014¥SetupPrerequisites

名前: Microsoft SQL Server 2014 Express Japanese(x64).prq

※ここで指定した名前で、[再配布可能ファイル]ビューにリストされます



### InstallShield 前提条件の追加

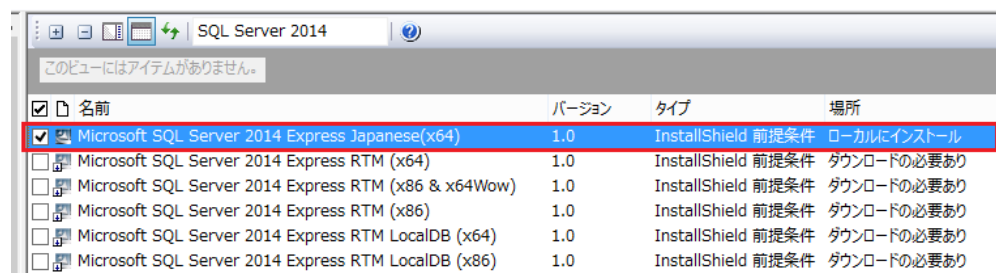
1. [アプリケーションデータ]—[再配布可能ファイル]ビューを表示します  
InstallScript プロジェクトの場合には、[前提条件]ビューを表示します

2. 上部の[更新]ボタンをクリックして、情報を更新します



3. 上部[検索グリッド]に、キーワード”SQL Server 2014”と入力し、作成した前提条件がリストに表示されたら、チェックを入れます

**前提条件: Microsoft SQL Server 2014 Express Japanese(x64).**



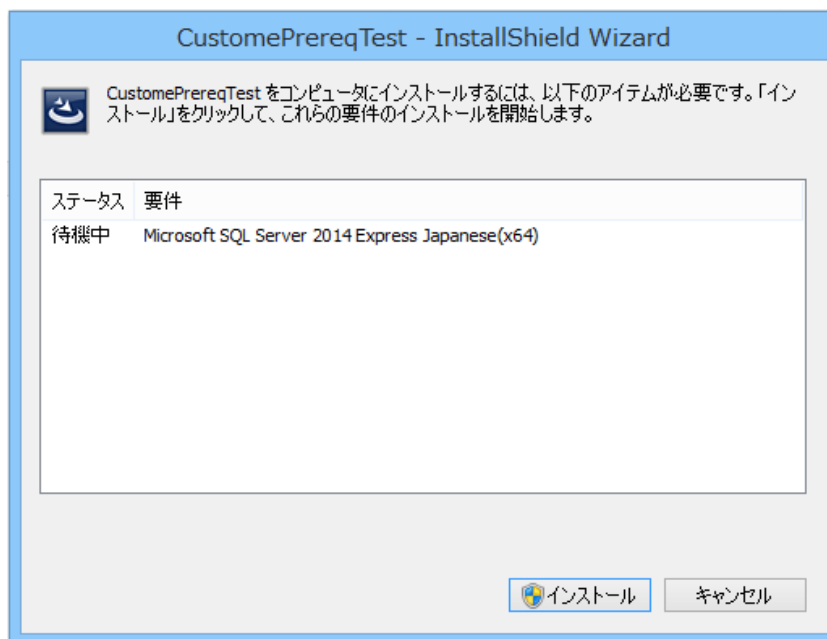
## 4. [リリース]ビューでリリースをビルドします。

「InstallShield 前提条件」パネルで、前提条件の場所を指定できます。

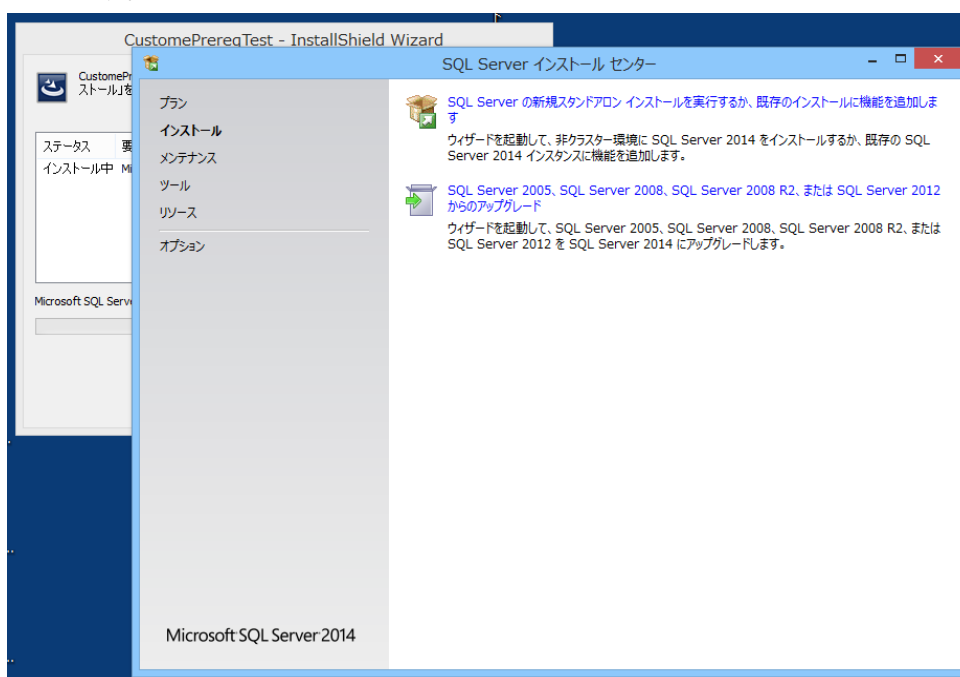
単一の setup.exe として前提条件も含めたい場合には [前提条件をSetup.exeから抽出する]を選択します。

また、非圧縮形式の場合には、[ソースメディアからコピーする]もしくは[Setup.exeから抽出する]を選択します

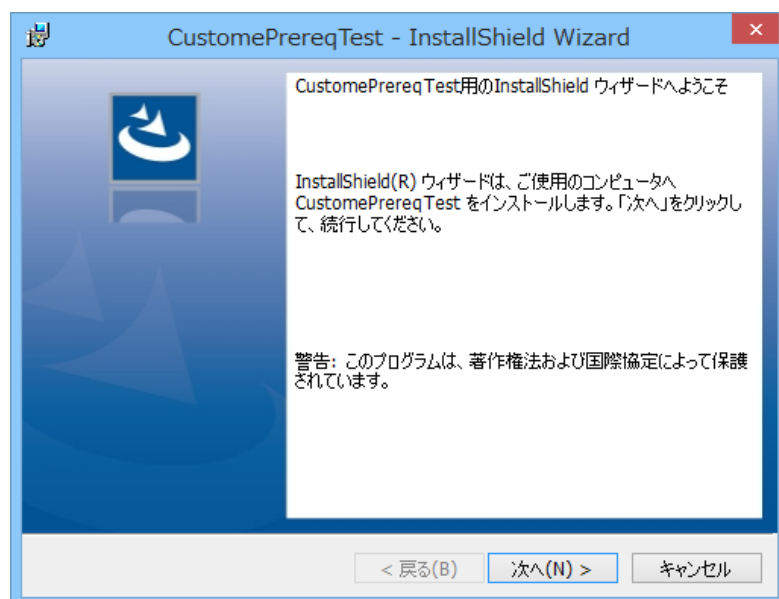
## 5. インストーラを実行します。Microsoft SQL Server 2014 Express がインストールされていない環境では、最初に前提条件が表示されます



[インストール]ボタンをクリックすると、ファイルの展開後 Microsoft SQL Server 2014 のセットアップ画面が表示されます。



Microsoft SQL Server 2014 のセットアップが終了すると、製品のインストールが開始されます。



このように独自の前提条件を作成・追加することで、製品のインストールに必要な関連モジュール(製品)のインストールも含めて、インストーラを配布することができます。